平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270200902		
法人名	社会福祉法人　由起会		
事業所名	社会福祉法人　由起会（おもやい）	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市上柚木町2515番地		
自己評価作成日	平成27年5月16日	評価結果市町村受理日	平成２７年７月２日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院３－１３－１１　サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年6月2日	評価確定日	平成27年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、立地的に山々に囲まれた環境にあり、四季折々の様々な変化を肌で感じられる所であります。ホームの周りには花壇があり春には満開の花々を楽しむ事ができ、夏には数種類の野菜を植え成長を楽しみ、収穫後はお料理の食材としておいしく頂いております。また、地域行事への参加も積極的に行っており楽しいひとときを過ごしております。利用者一人ひとりが自分らしく、残された力を充分に発揮し利用者・職員全員で助け合いながら生活していける笑顔の絶えないホーム作りをモットーに職員一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

佐世保市上柚木町に社会福祉法人由起会がある。複数の系列施設が連携し、地域の方々の生活（介護）支援を続けている。同一敷地内の“グループホームおもやい”は平屋の建物で、居室の窓には障子があり、家庭的な雰囲気を大切にした造りになっている。ご利用者はエプロンをして家事などを手伝って下さり、畳に座って縫い物をされる方もおられる。長い廊下で歩行訓練も続けており、居室で趣味の書道をされる方もおられる。ご利用者同士の関係や職員個々の心理に向き合い、毎日が穏やかに暮らせる努力を続けている。ホームの4つの理念の他に、「①明るい笑顔　②思いやる心　③気を配る心　④優しい言葉かけ」と言う“4つの薬”も掲げており、今後も日々の生活の中で実践できるように努めると共に、ご利用者個々の心身機能の維持向上（医療連携とリハビリ）を目指した取り組みを続けていく予定である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、管理者と職員が共有した意識をもち実践につなげている。毎月１回ケース会議時、唱和を行っている。	4つの理念を大切にしている。理念にある「残された力で暮らしの喜びと自信を」持って頂くために、ご利用者の喜怒哀楽に向き合い、楽しみや役割が増えるように努めている。「元気なのが当たり前」「今日も洗濯物を畳めることが幸せ」と言う思いで、1日1日を大切に過ごされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は散歩に出かけ、地域の方とあいさつを交わしたり、近くのスーパーに食材を買いに行っている。週に1度のパンの日も地域のパン工場より購入している。	併設施設の“花祭り”に、子ども達が着物姿で参加して下さり、夏祭りでは、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方がﾌﾗﾀﾞﾝｽ等を披露して下さっている。公民館祭りに出かけたり、小中学校の運動会では一緒に競技に参加しており、宮司祭りでは、無病息災を祈願して“草輪くぐり”を行うこともできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設において年3回地域の方に参加して頂く介護教室を開催している。認知症の講習会等も行い、認知症に対しての理解を深めたり、支援方法等も話し合っている。（本部法人）		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ご利用者のご家族、民生委員、包括支援センター職員の方々に参加して頂き、行事報告、事故、業務、入退所報告等行い、話し合いを行っている。地域の情報等も詳しく教えて頂いている。	2ヶ月に1回開催し、決算書の報告や自己評価（外部評価）等を報告している。会議では手作りのおやつ等を食べて頂き、ﾎｰﾑの生活を体験して頂いている。小学生や地域の方との交流方法のｱﾄﾞﾊﾞｲｽも頂き、27年夏には、小学生がﾎｰﾑで大正琴を披露して下さる予定になっている。	参加者の方々が、楽しく有意義に過ごして頂く事を大切にしている。なるべく専門用語を使わず、和気あいあいと意見交換ができる雰囲気を作っていくと共に、議題に応じたゲスト（地域の方）の検討も続けている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要がある時は、随時連絡を行い、情報交換を行っている。	介護保険の申請などは併設施設の担当者が行っている。市からの情報提供はメールで行われ、感染症や身体拘束等の研修案内も頂いている。地域包括の職員とは、居室の空き情報等の情報交換をしており、必要に応じて相談できる関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加し、正しい理解は得ている。玄関の施錠に限らず、一切の身体拘束は行っていない。	身体拘束は全くなく、契約時にリスクの説明を行い、同意を頂いている。ご利用者の入退居が続き、ご利用者同士の関係性にも配慮している。感情が不安定な時は職員が寄り添い、ご利用者全員が心穏やかに過ごせるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	併設施設やグループホーム協議会で行われる勉強会に参加している。利用者の精神状態の変化など見逃す事なく気を配り、入浴時に身体のアザ・傷など確認を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加し、正しい理解は得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安や疑問点を充分にお聞きした上で納得のいく説明を行い理解して頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用の方とコミュニケーションを取りながら意見や不満などをさりげなく聞いたり、アンケートにして要望等書いて頂いたりしている。ご家族様には、面会時に近況報告と共に必ず話す機会を設けている。	入退居が重なり、ご利用者の思いや要望の把握に努めてこられた。入浴の順番や外食先の希望も聞かれ、叶えるように努めている。家族には手紙（生活状況・健康状態）を毎月送ると共に、県外の方には写真を同封している。医療面やﾘﾊﾋﾞﾘの要望があり、医療連携を続けている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回法人全体のリーダー会や月1回のケース会議を実施し、各事業所の意見・問題点等を聞いて改善している。運営者・管理者は、併設施設に常勤しているため随時相談可能である。	入退居の検討や、法人の研修への参加方法を含め、職員同士の話し合いを続けている。委員会活動も行われ、勤務状況に応じて他の職員が協力できる関係もできている。週に1～2回は4人体制のシフトを組んでおり、ご利用者とゆっくり過ごせる時間が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員を正規雇用とし、年1回の昇給及び年2回の賞与は確実に行っている。資格取得時には、定期昇給とは別に特別昇給を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも様々な研修を実施しており、法人外での研修への参加も積極的に行っている。また、介護福祉士等の資格取得も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会には必ず出席し、他事業所との職員と情報交換等行い運営に役立てている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に必ず面談を行い、本人の思い等を十分に伺い、話し合い安心して入所して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に必ず面談を行い、ご家族が困っている事、不安に思っている事、要望等を十分に話し合い安心して入所して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、ご本人やご家族等と面談を行い十分に話し合い、必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者と共に基本姿勢（四つの薬）を毎日唱和し、日々の生活の中で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、健康状態や生活状況を書面にて報告を行い、面会時にも必ず近況報告を行っている。いろんな情報を共有しながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でコミュケーションを取って頂いたり、ご家族にご本人の思いを伝え、出来るだけご本人の思いが叶うよう動いて頂いたりと途切れないよう支援している。	系列の老健から入居された方も多く、生活歴などの情報共有ができている。地域行事に参加した時に、地域の方から声をかけて頂いたり、知人の面会があり、居室で過ごされている。近くの衣料品にお連れしたり、家族と一緒に市役所やお墓参りに行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課やレクレーション時、出来ない部分を助け合ったり、思いやったり、関係が悪化した時はお互いの愚痴や不満をきいてあげ落ち着かれるまで気を配っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡等は行っていないが入院されている方のお見舞いにいったり、外出先でご家族などに出会うと近況等を伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思い意向は、必ずお聞きし把握している。困難な場合は、ご家族に相談したり生活歴を参考にし本人本位に検討している。	日常のさりげない会話の中から、ご本人の思いを伺っている。日々の日課や行事の写真を飾り、家族に見て頂いている。ご利用者と一緒にテレビや新聞を見ている時に、外食や花見等の要望が聞かれており、行事計画に盛り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など詳しくお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食欲の有無や摂取量、バイタルチェック等の健康管理、会話や表情などから精神状態を観察し必ず毎日、９人全員の利用者の方と会話を交わし状態把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすため、チームで意見交換をしながらアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の役割作りを大切にしている。歩行訓練の距離も目標に掲げ、生活ﾘﾊﾋﾞﾘや散歩等も盛り込まれている。介護計画に応じたﾁｪｯｸを行い、実施できなかった理由は介護日誌に記入している。実行が困難になった内容は計画から外すなど、随時計画の変更が行われている。	家族からも「リハビリ」の要望を頂いている。今後も更に系列施設の理学療法士等との連携を深め、心身状態の維持・向上に努めていく予定である。また介護計画に挙げている「散歩」の機会を増やしていきたいと考えている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、業務日誌・介護日誌に行ったケアの実践・結果などを記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、形に捉われる事なく柔軟な支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、必要性がある時は支援を行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人の訴えやご家族の希望を第一に優先し行っている。かかりつけ医と事業者との信頼関係も築けており、適切な医療を受けられるよう支援している。	往診（月2回）と定期健診（年2回）を受けている。他科受診は家族が同行し、受診結果は家族と共有している。体調変化がある時は主治医に報告しており、薬等の要望が家族から聞かれた時も随時主治医に相談し、内服薬等に関する情報交換を続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の健康には気を配り、医療的に聞きたい情報や気づきなど、常に併設施設や協力病院の看護師に相談を行い適切な受診や看護を受けられるよう支援行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者との密な情報交換や相談等行い連携を取っている。特に協力病院とは週1回往診を行って頂き、日々の健康管理についても常々相談を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホーム内では、重度化や終末期のケアは行っておりません。	入居時にﾎｰﾑの方針を説明しており、法人全体で連携し、ご本人に適した生活の場所を検討している。「ここがいい」と希望する方もおられ、重度化しないよう歩行訓練や生活ﾘﾊﾋﾞﾘが行われ、入院・入所ぎりぎりまで誠心誠意のｹｱを続けている。機械浴が必要な時は、ご本人の安楽も考え、併設施設を紹介する場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生の対応については、併設施設での講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	併設施設での地域合同訓練や消火訓練・消防訓練に参加し、地域の方の協力を得られるよう働きかけを行っている。ホーム単独の避難訓練も年2回行うようにしている。火災を未然に防ぐため、コンセントのホコリや台所での火の取り扱い等には充分気を配っている。	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰを設置し、ｶﾞｽの元栓ﾁｪｯｸ等も続けている。法人全体で夜間想定の避難訓練が行われ（年1回）、消防署や地域の方も参加して下さった。ﾎｰﾑ単独の昼間想定の訓練（2回）も続けている。法人の給食委託会社で災害時の食材を準備すると共に、併設施設にもﾎｰﾑの入居者9人分の飲料水と食料等を準備している。避難災害場所の指定を受けており、緊急連絡網も作成している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつも目上の方であるという意識をもち人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けが出来るよう気を配っている。	法人で接遇研修をしている。プライバシーに配慮し、常に「人生の先輩」として尊敬の念を持って接するように努めている。時に、ご利用者への言動が強くなる時は、職員同士で注意しており、職員自身も反省し、対策の検討を続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない会話の中で、本人の思いや希望などを聞いたり、表したりする機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員の都合を押し付けたり、優先することなく個々のペースを把握した上でその方にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、本人の希望に合わせて選んで頂いたり、時には近くの衣料品店にいっしょに洋服を買いに行ったりしている。美容室も本人の希望する髪形をお聞きし美容師の方に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	使用する食材の相談、下ごしらえから盛り付け・配膳・片付けまで利用者と共に行っている。	ご利用者はｴﾌﾟﾛﾝ姿で、ﾈｷﾞを切る等の下ごしらえや食器洗い等をして下さっている。魚も骨付きで、上手に食べられている。中庭の炭焼きﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰも好評で、伐採前の梅の木から実を収穫し、梅干し作り等も行われた。職員も一緒に食べており、楽しい時間になるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のバイタルチェックや血液検査を元に食事量や塩分等の加減をドクター指示の元に行っている。水分摂取量が少ない方などには、声掛けを行い摂取促している。栄養バランスに関しては、併設施設の栄養士にチェックを依頼しアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回口腔ケアの声掛けを行い実施して頂いている。口腔内異常及び義歯の不具合の訴えがある場合は歯科受診を行って頂いている。義歯の洗浄が不十分な方には、週2回洗浄剤を使用し、殺菌消毒も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパット等を使用されている方など一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、なるべくトイレにて排泄して頂くよう支援をおこなっている。	布ﾊﾟﾝﾂ(ﾊﾟｯﾄﾞ)を着用する方もおられる。起立訓練などのﾘﾊﾋﾞﾘを行い、ﾄｲﾚで排泄できるように努めている。必要に応じて小声で誘導し、ﾊﾟｯﾄﾞの枚数が減った方もおられる。排泄時はｶｰﾃﾝを閉め、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食時に牛乳とバナナを出している。その他に野菜や果物を多く取り入れたバランスの良い食事を提供し、毎日のラジオ体操や歩行訓練など運動する機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、火・金の13時30分～としているが希望があれば検討も行っている。	入浴好きな方が多く、ご利用者の要望で順番表を作り、廊下に貼っている。湯船に浸かり、職員と会話したり、ご利用者2人で入浴される方もおられる。週2回の入浴以外もｼｬﾜｰ浴や清拭が行われ、季節に応じて柚子湯も楽しまれている。できる所は洗って頂き、必要な所を介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせて休息して頂いている。体調不良以外の昼食後の臥床は夜の安眠を保つ為に1時間程で離床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の効能や用法用量など職員全体が把握できるようノートを作成、理解すると共に症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のやりたい事や趣味、楽しみなど一人ひとりの希望を聞きながら見つけ出すと共に生活歴や力を生かした役割なども探し出し気分転換も含め活気ある生活をして頂くよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望にそって、園芸や散歩など戸外に出掛けリフレッシュできるよう支援している。又、本人の希望がかなえられるよう、ご家族の方に協力して頂いている。	中庭の花を眺めながら散歩したり、犬を可愛がる姿も見られている。老健の行事への参加(年8回)や、外食(年4回)にも行かれている。ご利用者の希望や体調で、「庄屋」や「ジョイフル」に行く事が多く、握り寿司等を食べられている。季節の花見も楽しまれ、個別の買い物も一緒に行かれており、今後も散歩等を増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人希望でお金を所持して頂いたり、お買い物などの外出支援の際、支払って頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えや職員が思いを察した時は、いつでも電話が掛けられるように支援している。手紙も同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間作りに気を配り、玄関・居間・食堂に季節の花を飾ったり、廊下にも季節感の出る小物を飾ったりしている。リビングには、家庭的な違和感のない家具や手作りの小物などを置いている。玄関・トイレ・各居室に消臭剤を置き不快感を取り除いている。	長い廊下で歩行訓練をされている。ホーム周囲の木々が伐採され、ﾘﾋﾞﾝｸﾞから段々畑や山などを眺めたり、鶯の鳴き声も遠くから聞こえてくる。畳に座って、縫い物や洗濯物を畳まれたり、台所で洗い物をして下さっている。曜日に応じて書道等をする時間もあり、ご利用者同士の関係性に配慮し、座席の工夫も続けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の明るい花壇の見える窓ぎわに気の合う仲間とおしゃべりをしたり、気ままに過ごせるソファーを置き居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や愛着のある物を持ってきて頂いたり、お花やご家族の写真など心が落ち着くようなものを飾ったりとご本人が居心地よく過ごせるお部屋作りを工夫しています。	車いすを利用する方もおられ、畳からﾌﾛｰﾘﾝｸﾞに改装した部屋もあり、居室の入口を広くする検討も行われている。隣接する老健から入居された方もおられ、家族の写真等を飾ったり、趣味の書道の道具を使い、居室で写経をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には、手すりを設置しており、ベランダの物干し台は高低がある物を使用している。居室の扉には、ネームプレートを掛けており、入口にはスリッパの脱ぎ履きがスムーズに行えるように手すりを設置している。		